

## ◆奨励賞◆

### 別の角度から

浜 岳 中 学 校 一 年

飯 屋 崎 泉 脩

僕は、小学一年生の三月から囲碁を習っている。だから、囲碁部に入部した。まだ、四か月程度しか経っていないが、その中の経験で学んだことがある。

七月にあった団体戦のことだ。三人一組一人補欠で強い順にチームが組まれた。僕は、部内で四番目の強さだったため、一番目のチームの補欠となった。せっかくの団体戦なのに、補欠は囲碁を打つことができないので、二番目のチームの主将で出られれば良いのと思った。囲碁教室でも部活でも、いつも同じ人と打ってばかりなので、知らない人、しかも同じぐらいの強さの中学生と打ってみたかった。僕は囲碁部の入部を考え始めたところから、入部したら団体戦に出られるように、棋力を上げるよう努力してきた。ずっと楽しみにしていた大会で打つことができず、納得がいかなかった。

だが、当日は予想外の良いことが三つもあった。

一つ目は、審判長のプロ棋士に指導碁してもらったことだ。その時に教えてもらったことは、使える機会は少なめだが、多くの人が知らない事だった。貴重なことを知れてよかった。

二つ目は、補欠だからこそ生じる待ち時間に、以前浜岳中学校囲碁部の顧問をしていた先生が気にかけてくれて、対局をしてくれたことだ。大会

で対局する出番はなかったが、ほめてもらい、今まで努力してきた良かったと思えた。うれしかった。

三つ目は、大会全体の雰囲気やシステムを知れたことだ。これは、補欠という立場で心に余裕があったからこそできたのだと思う。今の二年生が引退してしまったら、自分たちで動かないといけないので、どのような動きをとれば良いかを知る事ができたのはとても良かった。

これから、たくさんの団体戦があると思うが、今回の団体戦のおかげで落ち着いて囲碁に集中できるようになると感じた。

今回の団体戦で、納得のいかないと思える出来事もやってみると良いことがあるということを学んだ。

今回の僕は大会で打つことが全てだと一方的に決めつけていたから、実は打つことができなくても学べることに気づかなかったのだと思う。そもそも、別の角度から物事を考えることができれば、最初から前向きに望むことができたと思う。第一印象で避けずに、別の角度から想像し、判断していく。そのようにすれば、常に前向きに、有意義な時を過ごすことができるだろうと思う。

僕は、ネガティブに物事を捉えてしまうことが多いが、そんな時でも視点を変えて前向きに取り組めるようにしていきたい。そして、様々な出来事を総合的に判断し、必要な事を見極めることができる大人になりたいと思う。